国境を守る①

所要時間（往復）
徒歩　30分
車　　10分

鳴沢村

富士河口湖町
本栖

鳴沢・本栖には、駿河国との国境警護の拠点としての口留番所が存在したとされる。本栖には本栖城があり、西湖周辺に住む西之海衆と呼ばれる在地武士団が警護をしていた。その後、古関の口留番所（現甲府市）を守っていた渡辺囚獄佑が所領を得て国境警護の任務に就いた。囚獄佑は武田氏滅亡後、徳川氏に仕えた。

中道往還

甲斐国と駿河国を結ぶ幹線の一つであり、右左口路・姥口路とも呼ばれた。河内路と若彦路の中間にあることから、中道往還と呼ばれる。戦国時代には多くの軍勢が通行した。また、海のない甲斐国に塩・海産物を輸送するためにも重要な交通路であった。

⑱ 本栖城跡

本栖湖の北東にそびえる烏帽子岳から青木ヶ原に張り出した尾根上に築かれた山城。尾根には多くの堀切、本丸には烽火台などの遺構がある。城の北と南には、信玄築石と呼ばれる石積があり、他国勢のけん制の目的で造られたとの説がある。

⑲ 鳴沢番所跡

本栖と同様、西之海衆が警護を行っていた。江戸時代の中頃に廃止された。

⑳ 渡辺囚獄佑屋敷跡・墓所

渡辺囚獄佑の屋敷跡と伝承され、溶岩を用いた石垣で区画されている。屋敷北東部には、墓所とされる場所があり、五輪塔が立つ。墓は富士河口湖町指定史跡。

㉑ 本栖関所跡

本栖集落南端に設けられた関所跡。近くに渡辺囚獄佑屋敷跡及び墓所がある。駿河との国境に近く、西之海衆が守りについた。

㉒ 江岸寺

国境防備のために、武器を備えて武将の詰所とした伝承が残る。『甲斐国志』では、開基を渡辺囚獄佑としている。

⑱本栖城跡

⑳渡辺囚獄佑墓所

㉒江岸寺